



工場探訪 vol.1

今話題の「工場見学」。ろうきん会員さんの「ものづくりの現場」におじゃまします!

伝統技術を生かした歴史ある鋳物メーカー

だ い わ じ ゅ う 公 司

大和重工 株式会社

(住宅関連機器部門 吉田工場)

しっかり見ていきなさい!



住宅機器 吉田工場
工場長
大前 弘幸さん

当たり前のようにある、お風呂。みなさんはどこでどのように作られているか、知っていますか?浴槽の中でも保温性・耐久性に優れた鋳物ホーロー浴槽をつくっている大和重工 吉田工場を訪ねました。

日本で唯一の一貫生産 受け継ぐ「たたら」の精神

「大和重工 吉田工場」は、鋳物ホーロー浴槽や五右衛門風呂を生産している工場です。鋳造からホーローまでの工程を一貫して行っているのは、日本で唯一。「鋳物」とは、鉄・青銅・錫(すず)・鉛などの金属を溶かし、型に流し込んで製作した金属製品のこと。鋳物ホーローは、鋳物の素地の上にホーロー(ガラス)を焼き付けたもので、鉄の強さとガラスの錆びない性質・美しさを組み合わせたものです。

取材陣を出迎えてくれたのは「ホーロー浴槽の取材は滅多にない」ので嬉し

いです」と話す工場長の小前さんと、組合書記長の小泉さん。ヘルメットと作業服をお借りし、工場に入った瞬間に目に飛び込んできたのは70台もの浴槽の型。ゴォ〜という音をたてる工場内は、間近で見るとさらに迫力がありました。ドロドロに溶かした金属を流し込む作業場では、飛び散る火花と熱気に、思わず取材陣から歓声が。1,000℃を超える溶けた金属と隣り合わせの作業に、従業員の表情も真剣そのもの。原点となった「たたら*」の精神を受け継ぎ、180年という歴史をもつ大和重工は、これからも、みなさんの疲れた心と体を癒す浴槽をつくり続けてくれるでしょう。

ここが違う!

鋳物ホーロー浴槽

鋳物ホーロー浴槽は熱伝導率が高いので、体が受ける熱量が多く、全体が温まるうえに湯冷めしにくいのが魅力。樹脂と鋳物ホーローで作られたそれぞれのミニチュアの浴槽にお湯を入れ、実際に触ってみたところ…その違いは明らか!また、鉄で作られているため衝撃に強く、ホーローのお陰でいつまでも清潔です。

お風呂に浸かった 20 分後…

樹脂の浴槽

鋳物ホーロー浴槽

*「たたら」とは、大きなふいご(送風機)のこと。初期の製鉄現場で盛んに使われていたため、製鉄作業全体をさす言葉となりました。



この作業を、なんと一日に60~70回も繰り返します

ドロドロに溶けた金属を、浴槽専用の型に流し込みます。火花が肌や顔にかからないよう、作業員は防護服をしっかりと装着。容器を傾けたとたん、炎が! 30秒以内に急いで流し込まないと、すぐに固まってしまうのだそうです。

大和重工では、1カ月に約1,200~1,300台の鋳物ホーロー浴槽を生産しています。実は、2011年春にオープンしたシェラトンホテル広島浴槽も大和重工の製品なんですよ



JAM広島
大和重工労働組合 書記長
小泉 大介さん



1時間に1トン(浴槽8台分)の金属を溶かします

■さまざまなタイプの浴槽の型。広い敷地の工場は、取材陣にとってはまるで迷路のよう。 ■浴槽の他にも、学校の給食室にある回転釜や鍋、宮島・大聖院の大茶釜、マンホールの蓋、ゴルフのバターまでも、大和重工では生産しています。東日本大震災の被災地では、移動式かまどが大活躍し、五右衛門風呂も15台、被災地へ贈りました。 ■ホーロー浴槽の材料となる金属を約1,520℃まで温度をあげ、溶かし、次の作業をするための容器に移し替えます。工場内には、従業員へ注意を呼び掛けるサイレンが鳴り響き、ひと時も気を抜けない瞬間です。



熟練の技が最も要求される、ホーローがけの工程。熱した鋳物の素地の上にガラスの粉を振りかけます。



最終点検では、ひとつの浴槽に10分もかけて人の目でチェック。キズがないか丁寧にライトをあてます。



梱包待ちのピカピカの浴槽がズラリ。ここから、私たち消費者のもとへと発送されていくのです。

見つけた! 大和重工の看板たち

工場の敷地内にある、五右衛門風呂。ここで従業員がお風呂に入ることもあるのだとか。中にあるのは…書記長の小泉さん? (笑)

本社にある、世界一の大羽釜。高さはなんと、2.1m! 昔ながらの技術を後世に残したいと作られたもので、ギネスにも認定されています。重量感と迫力に圧倒!



取材協力 / 大和重工 株式会社(吉田工場) 安芸高田市吉田町川本763 ☎0826-43-0211